Ⅳ　令和６年度活用事業報告、重要文化財展示品

１　活用事業等報告

令和６年３月 24 日の開園以降、令和６年度末までのイベント・講座、展示、入園者数は以下のとおりである。

A　イベント・講座

イベント名	日時	会場	参加者	内容等
県　開園式	3 月 24 日	青谷かみじち史跡公園	1,525 人	テープカット、展示施設愛称発表等
指　オープン記念イベント	3 月 24 日～ 3 月 31 日	青谷かみじち史跡公園	3,032 人	古代体験、餅つき等
指　ゴールデンウィークイベント	4 月 27 日～ 5 月 6 日	青谷かみじち史跡公園	2,610 人	古代体験
県　ねんりんピック炬火採火式	5 月 26 日	青谷かみじち史跡公園	297 人	炬火採火式
県・指　マルコラ	6 月 1 日・2 日	鳥取砂丘子どものくに	約 400 人	狩猟体験 (県庁弥生の王国推進課、むきばんだ史跡公園、青谷かみじち史跡公園合同出展)
県・指　鳥取 PR イベント	6 月 15 日	ららぽーと門真（大阪府門真市）	体験 15 人 立寄 100 人以上	勾玉づくり (県庁弥生の王国推進課、むきばんだ史跡公園、青谷かみじち史跡公園合同出展)
指　夏休みイベント	7 月 13 日～ 8 月 24 日	青谷かみじち史跡公園	約 1,800 人	土器・石器づくり、鋳造体験、コンサート等
県　8 月 4 日は YAYOINE の日！！	8 月 4 日	青谷かみじち史跡公園	490 人	特別な古代体験、ミニ縁日等
県　青谷かみじちフェスタ 2024	11 月 3 日	青谷かみじち史跡公園ほか	約 1,500 人	県内外の施設による古代体験、ステージ、物販・飲食ブース等
県・指　古墳フェスはにコット	11 月 24 日	今城塚古墳公園（大阪府高槻市）	31 人	弥生の琴づくり
指　青谷かみじち感謝祭	11 月 24 日	青谷かみじち史跡公園	336 人	古代体験、弥生食の提供
指　大人のワークショップ～弥生のかごづくり～	12 月 22 日	青谷かみじち史跡公園	4 人	企画展に連動したワークショップ
	1 月 18 日		5 人	
	2 月 23 日		7 人	
	3 月 18 日		—	
指　かみじちお正月企画	1 月 4 日～ 13 日	青谷かみじち史跡公園	127 人	古代米プレゼント、かみじちおみくじ、かみじろう福笑い、かみじろうカルタ、かみじろう凧作り
県　弥生犬の研究に参加しよう	2 月 9 日	青谷かみじち史跡公園	4 人	出土したイヌの骨を計測し渡来系のイヌの割合を調べ、調査成果をポスターで展示
県・指　1 周年感謝祭	3 月 8 日～ 30 日	青谷かみじち史跡公園	—	土器づくり、土器炊飯、3 体目復顔像お披露目、記念講演会、ギャラリーコンサート、飲食物販、火おこし選手権、勾玉体験など
県　土曜講座	5 月 18 日	青谷かみじち史跡公園	24 人	「ぷらっと散策！青谷かみじち史跡公園」
	7 月 20 日		22 人	「石器の楽しみ方」
	10 月 5 日		32 人	「徹底比較！青谷上寺地遺跡 vs 朝日遺跡」
	1 月 25 日		20 人	「青谷上寺地遺跡の景観復原 CG 制作秘話」

B　展示・ガイダンス施設における展示

展示名	会期	会場	内容等
重要文化財展示１期	３月 23 日 ～７月 22 日	重要文化財展示室	重要文化財 34 点を展示
企画展 青谷弥生人その実像を探る	３月 23 日 ～９月 23 日	企画展示室	第１次調査で出土した人骨と伴出遺物を展示
重要文化財展示２期	７月 23 日 ～ 11 月 25 日	重要文化財展示室	重要文化財 35 点を展示。１期から 22 点を入れ替え
企画展弥生のかご	10 月５日 ～５月 18 日	企画展示室	青谷上寺地遺跡出土品を中心に、かごを展示
重要文化財展示３期	11 月 26 日 ～３月２日	重要文化財展示室	重要文化財 37 点を展示。２期からすべてを入れ替え
重要文化財展示４期	３月４日 ～７月 27 日	重要文化財展示室	重要文化財 37 点を展示。３期から 24 点を入れ替え

C　入園者数（令和７年３月 31 日現在）

４月：３，１６３人
５月：４，８４２人　　第１四半期
６月：２，７１８人　　：１０，７２３人
７月：２，６７４人
８月：４，２２４人　　第２四半期
９月：５，６９７人　　：１２，５９５人

１０月：２，５７３人
１１月：４，２２４人　　第３四半期
１２月：　７９１人　　：７，５８８人
１月：　８４１人
２月：　４７１人　　第４四半期
３月：２，７７６人　　：４，０８８人

合計３４，９９４人

D　イベント・講座の様子

開園式

ゴールデンウィークイベント（火おこし体験）

ねんりんピック炬火採火式

夏休みイベント（昆虫採集）

夏休みイベント（石器づくり）

８月４日は YAYOINE の日 !!（貝輪づくり）

８月４日は YAYOINE の日 !!（展示解説）

土曜講座（徹底比較！青谷上寺地遺跡 vs 朝日遺跡）

古墳フェスはにコット（琴づくり）

青谷かみじちフェスタ 2024（ステージイベント）

青谷かみじちフェスタ 2024（なりきり弥生人）

2　重要文化財展示品（令和７年３月 31 日現在）

重要文化財展示品目録（令和６年４月）

高杯（たかつき）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から３世紀頃）

堅く木目の美しいヤマグワの木から彫りだされた脚台付きの容器です。器の外面に花びらのような文様を彫りだしていることから、「花弁高杯（かべんたかつき）」と呼ばれています。口縁部（こうえんぶ）の片側にある木葉形の飾り耳がデザインのアクセントになっています。裾が広がる脚台部には、円を 12 分割する位置に縦長の飾り孔が施されています。器面を水銀朱、ベンガラを用いた顔料で赤く彩色した、優雅な器です。

【ケース１】文字＆音声ガイド０２

銅剣形骨角器（どうけんがたこっかくき）　弥生時代前期後葉から中期前葉（紀元前４世紀から紀元前３世紀頃）

クジラの骨でつくられた骨角製の剣です。青銅製の銅剣を真似たもので、実用の武器ではなく、祭祀に使われたと考えられています。銅剣の特徴を良くとらえた美しい一品です。

【ケース２】文字＆音声ガイド０３

器台（きだい）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

壺を載せるための台として製作された土器です。上下が広がる円筒形をしています。外面には赤く彩色された三角形の文様が上下３段に描かれており、土器の形と相まって、リズミカルな文様の構成が魅力を引き立てています。

【ケース３】文字＆音声ガイド０４

盾（たて）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

美しい文様で飾られた盾です。モミの木で製作されています。割れや反りを防ぐため、木目と直交する方向に紐を通して補強しています。また、丸い形をした上部には、端部を保護するための保護材を縫い付けるための細かな孔列があります。左右に渦巻状の文様と三角形の文様を施し、その周囲を水銀朱で赤く彩色しています。実戦用ではなく、儀式に用いられたものかもしれません。

【ケース４】文字＆音声ガイド０５

脚台付の壺（きゃくだいつきのつぼ）　弥生時代中期（紀元前１世紀頃）

脚台付きの壺形土器です。外側に張り出す胴部と、裾に向かって広がる脚部のバランスが絶妙です。口縁部と脚台部の裾には凹線文（おうせんもん）と呼ばれる平行線文が施され、器面は赤色の顔料で彩色されています。日常の生活に使用されたものではなく、儀式などに用いられたものと考えられます。

【ケース５】文字＆音声ガイド０６

ト骨（ぼっこつ）　弥生時代中期後葉から古墳時代前期前葉（紀元前１世紀から３世紀頃）

イノシシの肩甲骨を用いた占いの道具です。骨の突起を平らに削り、熱く焼けた棒を押しあて、生じた亀裂や穴の状態をもとに吉凶を占っていました。中国に起源をもつ占いで、弥生時代に朝鮮半島を経由して伝わりました。青谷上寺地遺跡からは250点もの卜骨が出土しており、頻繁に骨占いが行われていたようすがうかがわれます。

【ケース６】文字＆音声ガイド０７

櫛（くし）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から３世紀頃）

シカの角で作られた髪飾り用の櫛です。縦に長い形状をしており、４本の歯を削り出しています。上部に突起状の造形があり、櫛歯の根元には、流れる水を表したとみられる流水文（りゅうすいもん）と呼ばれる文様が彫られています。

【ケース７】文字＆音声ガイド０８

儀杖の飾り（ぎじょう）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から３世紀頃）

曲線的な文様を組み合わせた、左右対称のデザインが美しい装具です。素材はシカの角です。内部がくり抜かれ、目釘孔（めくぎあな）があることから、儀式用の杖に取り付けられた飾りだったと考えられます。

【ケース７】文字＆音声ガイド０９

板状鉄斧（いたじょうてっぷ）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

青谷上寺地遺跡から出土した最も大きな板状鉄斧です。朝鮮半島で製作されたと考えられるもので、純度の高い良質な鉄をハンマーで叩いて成形しています。木製の柄に装着し、木材の伐採などに使われていました。

【ケース８】文字＆音声ガイド１０

高杯（たかつき）　弥生時代後期から終末期（紀元１世紀から３世紀頃）

円盤型の飾りが付いた木製の器で、裾広がりの脚台部が付いています。ケヤキの木をくり抜いて製作したもので、脚台部には縦長の飾り孔が等間隔に並んでいます。退色していますが、本来は赤い顔料で彩色されていました。

【ケース９】文字＆音声ガイド１１

丸底の椀（わん）　弥生時代後期（紀元１世紀から２世紀頃）

両側に把手（とって）が付いた木製の器です。イヌガヤの木をくり抜いて製作したもので、一方には突起が付いた大きな把手、もう一方には小さな把手を削りだしています。器面はきれいに磨かれており、赤い顔料で彩色されていた痕跡があります。

【ケース１０】文字＆音声ガイド１２

鑿（のみ）　弥生時代後期（紀元１世紀から２世紀頃）

木材を削ったり、彫ったりする作業に使われた鉄製の工具です。シカの角で作られた柄に装着して使用していました。柄には握った手が滑るのを防ぐための刻み目を施しています。

【ケース１１】文字＆音声ガイド１３

石斧（せきふ）　弥生時代前期後葉から古墳時代前期前葉（紀元前４世紀から紀元３世紀頃）

整形した石を磨き上げて刃先を研ぎだした木材加工用の工具です。木製の柄に装着して使用していました。粗い加工には大きなものを、細部の加工には小さなものを使用していました。

【ケース１２】文字＆音声ガイド１４

玉（たま）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から紀元３世紀頃）

首飾りなどに用いられた装身具です。勾玉（まがたま）はヒスイ製、管玉（くだたま）と小玉はガラス製、算盤玉（そろばんだま）は水晶製です。ヒスイは新潟県の糸魚川流域で産出されたもので、たいへん貴重な石材です。また、ガラスは中国や朝鮮半島で生産されたものを入手し、青谷上寺地遺跡で加工していました。

【ケース１３】文字＆音声ガイド１５

離頭銛頭（りとうもりがしら）　弥生時代中期後葉から古墳時代前期前葉（紀元前１世紀から紀元３世紀頃）

シカの角で作られた漁労具です。大型の魚や海獣（かいじゅう）を仕留めるための道具で、カエリと呼ばれる鋭い突起がつくりだされています。縄を付けた銛頭を木の柄の先に取り付けて使用していました。銛が獲物に突き刺ささると柄が外れ、銛頭につながれた縄を引き寄せることで、獲物を捕らえていました。獲物により様々な形の銛頭を使い分けていたようです。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１６

匙（さじ）　弥生時代中期から後期（紀元前４世紀から紀元２世紀頃）

装飾が施された木製の匙の柄です。匙の部分は失われています。先端を反らせた柄の中央を透かし彫りで装飾しています。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１７

石斧（せきふ）　弥生時代中期中葉から後葉（紀元前２世紀から紀元前１世紀頃）

均整のとれたプロポーションが美しい大型の石斧です。研ぎだされた刃先がハマグリの貝殻のような形をしているので、太型蛤刃石斧と呼ばれています。木材の伐採に使用されていました。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１８

腰掛（こしかけ）　弥生時代中期（紀元前４世紀から紀元前１世紀頃）

１本の木から刳りだした小型の腰掛です。左右に湾曲する座板の下に４本の短い脚部が付いています。脚部は外側に向かって緩やかに湾曲するなど、美しく見えるように工夫されています。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１９

盤（ばん）　弥生時代後期後葉から終末期（紀元２世紀から３世紀頃）

皿のような形をした木製の器です。素材はスギの木です。四隅には四角い脚が付いています。表面の仕上げは簡素ですが、均整のとれた形が美しい逸品です。

【ケース１４】文字＆音声ガイド２０

壁板（かべいた）　弥生時代中期中葉から後葉（紀元前４世紀から紀元前１世紀頃）

切妻造りと呼ばれる屋根形状の建物に用いられた壁板です。素材は大きなスギの木です。屋根の勾配に合うように、壁板の両側は傾斜しており、端部には屋根に取り付けるための小孔が開けられています。手斧で仕上げられた痕跡がリズミカルな凹凸となって残っています。

【ケース１５】文字＆音声ガイド２１

栓（せん）　弥生時代後期（紀元１～２世紀頃）

建築材を結合するための部品で、スギの木で作られています。重ねた部材に穴を開け、栓を挿入して部材を固定しました。小さな部材ですが、丁寧に作られています。

【ケース１５】文字＆音声ガイド２２

重要文化財展示室展示品目録　2024.7.23~11.24

高杯（たかつき）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から３世紀頃）

木目の美しいヤマグワの木から彫りだされた脚台付きのうつわです。水銀朱を用いた顔料で赤く彩色しています。また、器の外面に花びら状の文様が彫刻されているので、「花弁高杯（かべんたかつき）」と呼ばれています。本品は脚台部を失っていますが、器部の花弁が６弁なので、脚部には 12 条のスリット（飾り孔）を施した脚台を伴っていたと考えられます。

【ケース１】文字＆音声ガイド０２

台付桶（だいつきおけ）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

ヤマグワの木をくり抜いて製作された台付きの桶形容器です。蓋を伴って出土しました。平面形は舟形をしており、美しい弧を描く側面形が秀逸な作品です。容器と蓋の両端部には小さな穴が開いています。器の中に入れたものを大事に保管するため、紐で蓋を閉じていたのでしょう。また台の部分には両側面に各 6 本の透かしが彫刻され、底面には 2 個一対の 6 組の突起が左右対称に付されています。

【ケース２】文字＆音声ガイド０３

器台（きだい）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

壺を載せるための台として製作された土器です。上下が広がる円筒形をしています。外面には赤く彩色された三角形の文様が上下３段に描かれており、土器の形と相まって、リズミカルな文様の構成が魅力を引き立てています。

【ケース３】文字＆音声ガイド０４

盾（たて）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から３世紀頃）

戦いの際に敵の攻撃から身を守るのに使われた盾です。本品は長さが 1mを超えるもので、隅を丸く成形しています。素材はモミ属の木です。割れや反りを防ぐため、木目と直交する方向に紐を通していました。縁部は 1.2 ㎝ほどの幅で色調が異なっており、別の素材を縫い付けて縁取りをしていた可能性があります。手で持って使用できる大きさですが、取手の痕跡が確認できないので、「置盾」として使用されていたものかもしれません。　【ケース４】文字＆音声ガイド０５

脚台付の壺（きゃくだいつきのつぼ）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

脚台付きの壺形土器です。外側に張り出す胴部と、裾に向かって広がる脚部のバランスが絶妙です。口縁部と脚台部の裾には凹線文（おうせんもん）と呼ばれる平行線文が施され、器面は赤色の顔料で彩色されています。日常の生活に使用されたものではなく、儀式などに用いられたものと考えられます。

【ケース５】文字＆音声ガイド０６

卜骨（ぼっこつ） 弥生時代中期後葉から終末期（紀元前１世紀から３世紀頃）

シカとイノシシの肩甲骨を用いた占いの道具です。骨の突起を平らに削り、熱く焼けた棒を押しあて、生じた亀裂や穴の状態をもとに吉凶を占っていました。中国に起源をもつ占いで、弥生時代に朝鮮半島を経由して伝わりました。青谷上寺地遺跡からは 250 点もの卜骨が出土しており、頻繁に骨占いが行われていたようすがうかがわれます。

【ケース６】文字＆音声ガイド０７

櫛（くし） 弥生時代後期から終末期（紀元１世紀から３世紀頃）

シカの角で作られた髪飾り用の櫛です。撥（ばち）形をした頭部に縦に長い５本の歯が並んでいます。1 本の歯が欠けていますが、全形をとどめた優品です。また、頭部の片面には、２段の平行沈線が施され、鋸歯文（きょしもん）と呼ばれる文様が線刻されています。線刻の中に赤色顔料が残存する部分があるので、本来は赤く彩色されていた可能性があります。

【ケース７】文字＆音声ガイド０８

儀杖（ぎじょう）の飾り 弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から３世紀頃）

曲線的な文様を組み合わせた、左右対称のデザインが美しい装具です。素材はシカの角です。内部がくり抜かれ、目釘孔（めくぎあな）があることから、儀式用の杖に取り付けられた飾りだったと考えられます。

【ケース７】文字＆音声ガイド０９

板状鉄斧（いたじょうてっぷ） 弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

青谷上寺地遺跡から出土した最も大きな板状鉄斧です。朝鮮半島で製作されたと考えられるもので、純度の高い良質な鉄をハンマーで叩いて成形しています。木製の柄に装着し、木材の伐採などに使われていました。

【ケース８】文字＆音声ガイド１０

高杯（たかつき） 弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

組み合わせ式の高杯の杯部です。杯部と脚台部を結合する部品（雇いほぞ）が付属しています。幅の広い水平な口縁部が杯部のアクセントになっています。「横木取り」したヤマグワの木をくり抜いて製作されており、木目が美しい一品です。

【ケース９】文字＆音声ガイド１１

容器の蓋 弥生時代後期（紀元１世紀から２世紀頃）

「横木取り」したヤマグワの木を素材とする蓋。下面の端部付近に段がある「被せ蓋」で、平面形は正円形をしており、上面には 2 段の同心円が彫刻されています。頂部の中央に小さな穴があり、コンパスのような道具を用い、デザインしている様子がうかがわれます。また上面は赤色の顔料で彩色されています。

【ケース１０】文字＆音声ガイド１２

鏨（たがね）　弥生時代後期（紀元１世紀から２世紀頃）

鉄製の鏨です。完全な形を保っています。上部をたたいて使用するため、上端部は幅広になっています。木製の容器などの製作の際、加工に使用されたものと考えられます。【ケース１１】文字＆音声ガイド１３

石斧（せきふ）　弥生時代前期後葉から古墳時代前期前葉（紀元前５世紀から紀元３世紀頃）

整形した石を磨き上げて刃先を研ぎだした木材加工用の工具です。木製の柄に装着して使用していました。粗い加工には大きなものを、細部の加工には小さなものを使用していました。　【ケース１２】文字＆音声ガイド１４

玉（たま）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から紀元３世紀頃）

首飾りなどに用いられた装身具です。勾玉（まがたま）はヒスイ製、管玉（くだたま）と小玉はガラス製、算盤玉（そろばんだま）は水晶製です。ヒスイは新潟県の糸魚川周辺で産出されたもので、たいへん貴重な石材です。また、ガラスは中国や朝鮮半島で生産されたものを入手し、青谷上寺地遺跡で加工していました。

【ケース１３】文字＆音声ガイド１５

ヤス先　弥生時代中期後葉から古墳時代前期前葉（紀元前１世紀から紀元３世紀頃）

シカの角で作られた漁労具です。魚を突き刺して捕える漁に使う「ヤス」の先端部分で、３・４本に枝分かれした柄の先端に取り付けて使用されていました。刺突した魚に逃げられないように、左右両側面には交互に鋭いカエシが並んでいるものがあります。　【ケース１４】文字＆音声ガイド１６

離頭銛頭（りとうもりがしら）　弥生時代中期後葉～古墳時代前期前葉（紀元前１世紀から紀元３世紀頃）

シカの角で作られた漁労具です。大型の魚や海獣（かいじゅう）を仕留めるための道具で、カエシと呼ばれる鋭い突起がつくりだされています。縄を付けた銛頭を木の柄の先に取り付けて使用していました。銛が獲物に突き刺ささると柄が外れ、銛頭につながれた縄を引き寄せることで、獲物を捕らえていました。獲物により様々な形の銛頭を使い分けていたようです。　【ケース１４】文字＆音声ガイド１７

釣針（つりばり）　弥生時代中期中葉から古墳時代前期前葉（紀元前３世紀から紀元３世紀頃）

軸と針を組わせて使用する大型の結合式釣針です。軸の素材はシカの角です。軸の結合部には針を取り付ける溝があります。針は哺乳類の牙を加工したものです。先端には外側にカエシがつくられています。外洋でマグロ、サメなどの大型魚を釣り上げるのに使われていたと考えられます。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１８

骨鏃（こつぞく）　弥生時代中期中葉から後葉（紀元前３世紀から紀元前１世紀頃）

矢の先端に取り付ける鏃（やじり）です。素材はシカの角です。矢のシャフト（箆（の））に取り付ける茎部と鏃身部が作り分けされています。鏃身部は丁寧に研ぎだされ、中央部に明瞭な鎬（しのぎ）が観察できます。左右対称で均整の取れた美しい骨鏃です。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１９

石斧（せきふ）　弥生時代中期中葉から後葉（紀元前３世紀から紀元前１世紀頃）

均整のとれたプロポーションが美しい大型の石斧です。研ぎだされた刃先がハマグリの貝殻のような形をしているので、太型蛤刃石斧と呼ばれています。木材の伐採に使用されていました。

【ケース１４】文字＆音声ガイド２０

盤（ばん）　弥生時代後期後葉から終末期（紀元２世紀から３世紀頃）

正方形に成形された木製の器です。素材はスギの木です。四隅には四角い脚が付いています。表面の仕上げは簡素ですが、均整のとれた形が美しい逸品です。

【ケース１４】文字＆音声ガイド２１

机（つくえ）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から紀元３世紀頃）

長方形の板に撥（ばち）形の脚がつく木製品です。椅子のようにも見えますが、組み合わされた脚の強度を考えると、作業台のような小型の机の可能性があります。

【ケース１４】文字＆音声ガイド２２

栓（せん）　弥生時代後期から古墳時代前期前葉（紀元１世紀から３世紀頃）

建築材を結合するための部品で、スギの木で作られています。重ねた部材に穴を開け、栓を挿入して部材を固定しました。小さな部材ですが、丁寧に作られています。

【ケース１５】文字＆音声ガイド２３

床板（ゆかいた）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

青谷上寺地遺跡からは壁板や床板に使用されていたとみられる板材が出土しています。その区別は難しいのですが、床板は荷重に耐える必要があることから、厚さが３㎝を超えるものは床板だった可能性があると考えています。この床板は長辺の片側中央部に２つの方形の穴があり、そのうちの１つに目釘と思われる部材が詰まっています。また、中央の穴を境にして、手斧による切削の方向が変化しており、まるで矢羽根状の装飾のようです。

【ケース１５】文字＆音声ガイド２４

梁（はり）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

長い角材の短部に欠き込みのある建築部材です。両端部の片側が斜めにカットされています。屋根との取り合いを考えて加工されたものと推測されることから、高床建物の屋根の荷重を支える骨組みとなる「梁」と考えられます。

【ケース１５】文字＆音声ガイド２５

重要文化財展示室展示品目録　2024.11.26~2025.3.2

高杯（たかつき）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

木目の美しいヤマグワの木から彫りだされた脚台付きのうつわの杯（皿）の部分と脚台の破片です。いずれも水銀朱で赤く彩色しています。杯の外面に花びら状の文様が彫刻されているので、「花弁高杯（かべんたかつき）」と呼ばれています。

【ケース１】文字＆音声ガイド０２

琴板（こといた）　弥生時代中期中葉～後葉（紀元前１世紀頃）

スギで作られた箱形の琴の側板です。中央に音を出す孔が空けられていて、その両脇に動物の絵が陰刻されています。中央の動物は他の出土品に描かれた絵からシカと考えられます。右２頭と左端１頭は同じモチーフですが、動物の種類には諸説あります。左から２頭目の動物も元はこれらと同じモチーフだったようですが、頭部を彫り直して形を変えています。

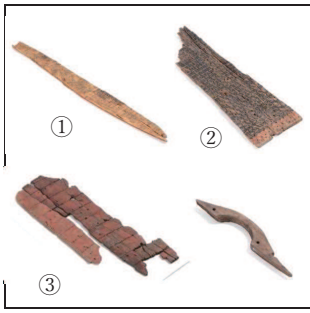
【ケース２】文字＆音声ガイド０３

台付鉢（だいつきはち）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

注口のついた脚台付きの鉢です。鉢の上半部や脚台部の外面に、三角形や矢羽根状の文様、凹線文（おうせんもん）と呼ばれる平行線文を何重にも施して装飾しています。広島県北東部で作られていた祭祀用の土器の特徴を持っており、他地域との交流を示す資料です。

【ケース３】文字＆音声ガイド０４

盾（たて）　弥生時代中期中葉～古墳時代前期前葉（紀元前１世紀～紀元３世紀頃）



戦いの際に敵の攻撃から身を守るのに使われた盾の破片と盾の把手です。把手はスギ、その他はモミ属の木を素材としています。盾はいずれも割れや反りを防ぐため、木目と直交する方向に紐を通しています。左端の盾（①）は緑と赤、左から２つ目の盾（②）は黒と赤、左から３つ目の盾（③）は赤の顔料で彩色されています。緑の顔料には「緑土」と呼ばれる鉱物を用いていることが分かっています。なお、この盾が日本列島における緑色顔料の最古の使用例です。黒色と赤色の塗り分けがある盾は、反対側の面を赤く塗っています。

【ケース４】文字＆音声ガイド０５

台付壺（だいつきつぼ）　弥生時代後期中葉（紀元２世紀頃）

脚台付きの壺形土器です。そろばん玉のように胴部が外側に張り出す形状が特徴的です。土器の表面は、連続する渦巻き状の文様や半円を重ねたような文様で飾り立てられています。これらの文様は、文様が彫り込まれたスタンプを粘土が乾く前の土器表面に押し当ててつけられたものです。また、土器表面には赤色の顔料が塗られています。日常の生活に使用されたものではなく、儀式などに用いられたものと考えられます。

【ケース５】文字＆音声ガイド０６

ト骨（ぼっこつ）　弥生時代中期中葉～古墳時代前期前葉（紀元前１世紀～紀元３世紀頃）

イノシシの肩甲骨を用いた占いの道具です。骨の突起を平らに削り、熱く焼けた棒を押しあて、生じた亀裂や穴の状態をもとに吉凶を占っていました。中国に起源をもつ占いで、弥生時代に朝鮮半島を経由して伝わりました。青谷上寺地遺跡からはシカやイノシシなどの骨を用いた 250 点もの卜骨が出土しており、頻繁に骨占いが行われていたようすがうかがわれます。

【ケース６】文字＆音声ガイド０７

簪（かんざし）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～紀元３世紀頃）

シカの角で作られた髪飾りです。シカの角を薄く削って作った櫛歯を複数本並べ、糸を巻き付けて束ねています。片側の側面に糸が残っていないことから、本来は歯が３本以上あったようです。束ねた糸は赤く塗られています。

【ケース７】文字＆音声ガイド０８

柄頭（つかがしら）　弥生時代後期（紀元１世紀～２世紀頃）

素材はシカの角です。内部はくり抜かれ、スリットが空けられています。儀式用の杖や武器の柄などに取り付けられた飾りだったと考えられます。赤く塗られていた痕跡があります。

【ケース７】文字＆音声ガイド０９

鋳造鉄斧（ちゅうぞうてっぷ）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

鋳物（いもの）の斧です。中国北東部・朝鮮半島北西部で製作されたもので、海を介したダイナミックな交流を示す資料です。刃を柄に直交して装着する横斧（手斧（ちょうな））として、木材の伐採などに使われていました。

【ケース８】文字＆音声ガイド１０

高杯（たかつき）　弥生時代後期～終末期（紀元１世紀～３世紀頃）

ヤマグワの木をくり抜いて製作された高杯の杯部です。水平に伸びる広い口縁部に特色があります。上から見ると美しい円を描いており、木工技術の高さをうかがうことができます。

【ケース９】文字＆音声ガイド１１

高杯（たかつき）　弥生時代後期（紀元１世紀～２世紀頃）

ヤマグワの木をくり抜いて製作された高杯の脚部です。側面に縦長のスリットが４箇所空けられ、脚の下面には１６個の突起が作り出されています。外面は赤色の顔料で彩色されています。

【ケース１０】文字＆音声ガイド１２

鑿（のみ）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

鉄製の鑿です。刃と反対側の端に袋状のソケットが作られており、ここに柄を差し込んで使っていたようです。木製品の製作などに使用されたものと考えられます。

【ケース１１】文字＆音声ガイド１３

穿孔具（せんこうぐ）　弥生時代後期（紀元１世紀～２世紀頃）

先端を尖らせた錐状の鉄製品です。孔を空けたり、細かい加工をするためのものづくり用の道具と考えられます。

【ケース１１】文字＆音声ガイド１４

石斧（せきふ）　弥生時代中期前葉～古墳時代前期前葉（紀元前４世紀～紀元３世紀頃）

整形した石を磨き上げて作った斧です。いずれも木製の柄に装着して使用していました。一番大きなものは刃と柄が並行する縦斧で、木の伐採に用いられていました。他の２点は木材加工用の斧で、粗い加工には大きなものを、細部の加工には小さなものを使用していました。

【ケース１２】文字＆音声ガイド１５

玉（たま）　弥生時代中期～古墳時代前期前葉（紀元前４世紀～紀元３世紀頃）

首飾りなどに用いられた装身具です。勾玉（まがたま）は蛇紋岩製、小玉はガラス製、算盤玉（そろばんだま）は水晶製です。ガラスは中国や朝鮮半島で生産されたものを入手し、青谷上寺地遺跡で加工していました。

【ケース１３】文字＆音声ガイド１６

針（はり）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

動物の骨を素材とした針です。頭に孔が開けられています。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１７

針入れ（はりいれ）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

中空の鳥類の骨を利用して作られた針入れと推定している道具です。両端に１箇所ずつ孔が開けられています。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１８

離頭銛頭（りとうもりがしら）　弥生時代中期後葉～古墳時代前期前葉（紀元前１世紀～紀元３世紀頃）

シカの角で作られた漁労具です。大型の魚や海獣（かいじゅう）を仕留めるための道具です。縄を付けた銛頭を木の柄の先に取り付けて使用していました。銛が獲物に突き刺さると柄が外れ、銛頭につながれた縄を引き寄せることで、獲物を捕らえていました。獲物により様々な形の銛頭を使い分けていたようです。

【ケース１４】文字＆音声ガイド１９

匙（さじ）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

木製の匙です。形や大きさに様々なバリエーションがあり、デザイン性に富んだものも多く見られます。

【ケース１４】文字＆音声ガイド２０

櫂（かい）　弥生時代中期中葉～中期後葉（紀元前１世紀頃）

船を漕ぐ際に用いた木製の櫂です。均整の取れた形状で表面の加工も非常に丁寧です。ヤマグワの木を素材にしています。

【ケース１４】文字＆音声ガイド２１

直柄又鍬（なおえまたぐわ）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

木製の鍬です。柄と刃先の一部を除いて、ほぼ全体の形状が分かる良好な資料です。身はカシ、柄はスギを素材にしています。刃先が４本に分かれており、土を崩したり耕したりするために用いられました。

【ケース１４】文字＆音声ガイド２２

扉板（とびらいた）　弥生時代中期中葉～中期後葉（紀元前１世紀頃）

建物の扉に使用されたと推定されるスギ製の板材です。板には溝を彫り、そこに棒状の角材（枘（ほぞ））がはめ込まれています。本来はこの板の横に同じ加工を施した板を並べ、２枚の板の溝に角材を通すことで接合していたものです。この技法は蟻桟（ありざん）と呼ばれるもので、現在でも木造建築や家具製作に用いられています。

【ケース１５】文字＆音声ガイド２３

壁板（かべいた）　弥生時代中期中葉～中期後葉（紀元前１世紀頃）

建物の壁に使用された板です。長さが 267 センチメートルあります。スギの丸太を板状に割り出し、表面を手斧で削って厚みを整えています。短辺に紐などで別の建築材と接合するための孔が２箇所開けられています。

【ケース１５】文字＆音声ガイド２４

重要文化財展示室展示品目録　2025.3.4~2025.7. 22

高杯（たかつき）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

木目の美しいヤマグワの木から彫りだされた脚台付きの杯（つき）です。杯の下面に花びら状の文様が彫刻されているので、「花弁高杯（かべんたかつき）」と呼ばれています。杯の上端２箇所には蓋（ふた）を取り付けるための孔（あな）が開けられています。

【ケース１】文字＆音声ガイド０２

桶形容器（おけがたようき）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

ヤマグワの木をくり抜いて作られた脚台付きの桶形容器（おけがたようき）です。平面形は舟形をしており、美しい弧を描く側面形が秀逸な作品です。上端部には２箇所の孔（あな）が開いており、組み合う蓋があったことが推測できます。

【ケース２】文字＆音声ガイド０３

台付壺（だいつきつぼ）　弥生時代後期（紀元１世紀～２世紀頃）

木製の脚台付きの壺（つぼ）とその蓋（ふた）です。壺はサクラ属、蓋はモクレン属の木を素材としています。どちらも表面全体に黒漆（くろうるし）を塗った後、赤漆（あかうるし）で様々な文様を描いています。文様は渦巻き状の文様や円を重ねた文様などを連続的に施しています。また、蓋の上面と壺の脚の付け根には、花弁高杯（かべんたかつき）に見られるものと同じ花びら状の文様を描いています。弥生時代の漆工（しっこう）技術の高さがうかがえる逸品です。

【ケース３】文字＆音声ガイド０４

盾（たて）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

戦いの際に敵の攻撃から身を守るのに使われた盾の破片です。補強のための紐（ひも）を通す孔（あな）が等間隔に開けられています。表面は赤色の顔料で彩色されています。素材はモミ属の木です。

【ケース４】文字＆音声ガイド０５

台付壺（だいつきつぼ）　弥生時代後期中葉（紀元２世紀頃）

脚台付きの壺形土器です。そろばん玉のように胴部が外側に張り出す形状が特徴的です。土器の表面は、連続する渦巻き状の文様や半円を重ねたような文様で飾り立てられています。これらの文様は、文様が彫り込まれたスタンプを粘土が乾く前の土器表面に押し当ててつけられたものです。また、土器表面には赤色の顔料が塗られています。形状や文様が木製の台付壺（ケース３）と非常に類似しており、用途などに共通性があったと考えられます。

【ケース５】文字＆音声ガイド０６

ト骨（ぼっこつ）　弥生時代中期中葉～中期後葉（紀元前３世紀～紀元前１世紀頃）

シカ（左）とイノシシ（右）の肩甲骨（けんこうこつ）を用いた占いの道具です。熱く焼けた棒を押しあて、生じた亀裂や穴の状態をもとに吉凶を占っていました。中国に起源をもつ占いで、弥生時代に朝鮮半島を経由して伝わりました。青谷上寺地遺跡から 250 点ものト骨が出土しており、頻繁（ひんぱん）に骨占いが行われていたようすがうかがわれます。

【ケース６】文字＆音声ガイド０７

簪（かんざし）　弥生時代前期後葉～古墳時代前期前葉（紀元前５世紀～紀元３世紀頃）

シカの角を削って作られた髪飾（かみかざ）りです。左のものは頭部を丸く加工し、その縁を細かく刻んで装飾しています。右のものは全体を弓なりに反る形状に加工し、先端を尖らせ、頭部に孔（あな）を開けています。

【ケース７】文字＆音声ガイド０８

櫛（くし）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

シカの角で作られた髪飾り用の櫛です。本来は縦に長い形状をしており、欠損した部分にはおそらく４本の櫛歯（くしば）があったものと思われます。上端に突起状の造形があり、櫛歯（くしば）の根元に流水文（りゅうすいもん）と呼ばれる文様が彫られています。

【ケース７】文字＆音声ガイド０９

鋳造鉄斧（ちゅうぞうてっぷ）　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

鋳物（いもの）の斧（おの）です。中国北東部・朝鮮半島北西部で製作されたもので、海を介したダイナミックな交流を示す資料です。ソケット部を柄にはめ込んで、木の伐採などに使われていました。

【ケース８】文字＆音声ガイド１０

高杯（たかつき）　弥生時代前期後葉～中期前葉（紀元前５世紀～紀元前４世紀頃）

ヤマグワの木をくり抜いて製作された高杯（たかつき）です。水平に伸びる広い口縁部に特色があります。上から見ると美しい円を描いており、木工技術の高さをうかがうことができます。

【ケース９】文字＆音声ガイド１１

アカ取（と）り　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

船の中に溜まった水を掻（か）き出す道具と考えられます。青谷上寺地遺跡では実用的で簡素な作りのアカ取りが多く出土していますが、それらに比べ本品は華奢（きゃしゃ）な作りで、把手（とって）に装飾を施すほか、仕上げも非常に丁寧です。

【ケース１０】文字＆音声ガイド１２

鑿（のみ）　弥生時代後葉～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

鉄製の鑿（のみ）です。刃と反対側の端に袋状のソケットが作られており、ここに柄を差し込んで使っていたようです。木製品の製作などに使用されたものと考えられます。

【ケース１１】文字＆音声ガイド１３

穿孔具　弥生時代後期（紀元１世紀～２世紀頃）

	先端を尖らせた錐状の鉄製品です。孔を開けたり、細かい加工をするためのものづくり用の道具と考えられます。 【ケース１１】文字＆音声ガイド１４

石斧　弥生時代中期前葉～古墳時代前期前葉（紀元前４世紀～紀元３世紀頃）

	整形した石を磨き上げて作った斧です。いずれも木製の柄に装着して使用していました。一番大きなものは刃を柄と並行する方向に取り付ける縦斧で、木の伐採に用いられていました。他の２点は木材加工用の石斧で、中型のものは手斧として、小型のものは鑿のような細部加工具として使われたと考えられます。 【ケース１２】文字＆音声ガイド１５

玉　弥生時代中期～古墳時代前期前葉（紀元前４世紀～紀元３世紀頃）

	首飾りなどに用いられた装身具です。勾玉は蛇紋岩製、小玉はガラス製、算盤玉は水晶製です。ガラスは中国や朝鮮半島で生産されたものを入手し、青谷上寺地遺跡で小玉に加工していました。 【ケース１３】文字＆音声ガイド１６

骨鏃　弥生時代後期（紀元１世紀頃～２世紀頃）

	動物の骨で作られた、矢の先端に取り付ける鏃です。矢のシャフト（箆）に取り付ける茎部と鏃身部が作り分けされています。 【ケース１４】文字＆音声ガイド１７

離頭銛頭　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

	シカの角で作られた漁労具です。中央の孔に縄を結わえ、木の柄の先に取り付けて使用していました。銛が獲物に突き刺ささると柄が外れ、銛頭につながれた縄を引き寄せて獲物を捕らえていました。この資料は先端を平たく加工して孔を開けていることから、この部分に別作りの刃を装着して使っていたようです。 【ケース１４】文字＆音声ガイド１８

ヤス先　弥生時代中期（紀元前４世紀から紀元前１世紀頃）

	シカの角で作られた漁労具です。魚を突き刺して捕える漁に使う「ヤス」の先端部分で、３・４本に枝分かれした柄の先端に取り付けて使用されていました。刺突した魚に逃げられないように、左右両側面は交互に鋭いカエシが並んでいるものがあります。　【ケース１４】文字＆音声ガイド１９

針　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

	動物の骨を素材とした針です。頭に孔が開けられています。 【ケース１４】文字＆音声ガイド２０

針入れ　弥生時代後期～古墳時代前期前葉（紀元１世紀～３世紀頃）

	中空の鳥類の骨を利用して作られた針入れと推定している道具です。 【ケース１４】文字＆音声ガイド２１

石斧（せきふ）　弥生時代前期後葉～中期前葉（紀元前５世紀～紀元前４世紀頃）

	均整のとれたプロポーションが美しい大型の石斧です。研ぎだされた刃先がハマグリの貝殻のような形をしているので、太型蛤刃石斧と呼ばれています。木材の伐採に使用されていました。 【ケース１４】文字＆音声ガイド２２

桛（かせ）　弥生時代後期（紀元１世紀頃～２世紀頃）

	紡いだ糸を巻き取るための道具です。糸をかけるための凹みが腕木（うでぎ）の両端に計４箇所作られています。 【ケース１４】文字＆音声ガイド２３

櫂（かい）　弥生時代中期後葉（紀元前１世紀頃）

	船を漕（こ）ぐ際に用いた木製の櫂です。クワ属の木を素材にしています。均整の取れた形状で、表面の加工も非常に丁寧です。表面に３匹、裏面にも２匹のサメと思われる魚の線刻画があります。 【ケース１４】文字＆音声ガイド２４

盤（ばん）　弥生時代後期（紀元１世紀～２世紀）

	底に脚をもつ、長方形の木製の器です。マキ属の木を素材としています。表面の仕上げが非常に丁寧です。 【ケース１４】文字＆音声ガイド２５

梯子（はしご）　弥生時代中期中葉～中期後葉（紀元前３世紀～紀元前１世紀頃）

	スギの木を加工して作った梯子（はしご）です。高床式（たかゆかしき）の建物の入口への昇降に使用したと考えられます。 【ケース１５】文字＆音声ガイド２６

梁（はり）　弥生時代中期中葉～中期後葉（紀元前３世紀～紀元前１世紀頃）

	長い角材の両端に欠き込みが施された建築部材です。欠き込みの反対側も斜めにカットされており、これは屋根の形状にあわせた加工と推測されることから、建物の屋根を支える骨組みとなる梁（はり）と考えられます。スギを素材としています。 【ケース１５】文字＆音声ガイド２７

柱（はしら）　弥生時代中期中葉～中期後葉（紀元前３世紀～紀元前１世紀頃）

	スギ製の長大な角材で、掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）の柱材（はしらざい）と考えられます。材の一端に、輪薙込（わなぎこみ）と呼ばれる桁梁材（けたはりざい）を結合するための加工が施されています。 【ケース１５】文字＆音声ガイド２８

青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2024

発　行　2025 年３月 31 日
編　集　鳥取県立青谷かみじち史跡公園
　　調査研究事務所
　　〒 689-0592 鳥取市青谷町青谷 4064-1
　　電話（0857）85-5011